

ふれあい通信

新春号



特集

「夢」を追求する人の話には力がある。

とちぎ未来大使「夢」講座（矢板市立泉中学校）

令和元（2019）年9月10日（火） 矢板市文化会館

とちぎ未来大使 大貫裕子氏
による講話と実技指導

とちぎ未来大使を御存じでしょうか。県内外で活躍され、ふるさと栃木の魅力・実力を積極的に発信してくださる方に対し、県知事が「とちぎ未来大使」を委嘱しています。

例えば、ロンドン五輪卓球女子団体銀メダリストの平野早矢香氏やロックシンガー・俳優のダイアモンド☆ユカイ氏、元サッカー女子日本代表の手塚貴子氏など様々な方がとちぎ未来大使として活動されています。

去る9月10日、矢板市立泉中学校の校内合唱コンクールに合わせ、声楽家の大貫裕子氏をお呼び



大貫裕子氏



し、とちぎ未来大使「夢」講座を開催しました。

大貫氏は、鹿沼市出身。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科、東京芸術大学卒業後、ウイーン市立音楽院に3年間留学されました。留学中に、ベルギーBRT放送局の招聘を受け、アントワープ歌劇場でオペラデビューを果たしました。

一見、順風満帆のように感じますが、まず大学で挫折を味わったとのことでした。高校では通用していた歌が、大学では埋もれてしまいました。通用しなかったというのです。

しかし、そこでくじけずに努力を続け、今に至るまでの道のりや、オペラやミュージカルの世界、さらにコミュニケーションの大切さなど、珠玉のお話を聞かせてくださいました。

「夢」を追求する人の話には力がある—そんなことを改めて感じた時間となりました。受験や自分の将来を考え始める中学生にとって、このような話は間違いなく心に残ることでしょう。2月には矢板中学校で「夢」講座を実施します。お迎えする講師は、マツケンサンバの振付をされた真島茂樹氏です。どのような「夢」を語られるのか、とても楽しみです。



生徒に実技指導をする大貫氏

学校と地域の確実な連携・協働を目指し

て 令和元（2019）年度 塩谷南那須地区コーディネーター養成研修③
令和元（2019）年12月3日（火） 塩谷庁舎401会議室



実践を発表する福田トミ子氏

今や学校は、地域とのパートナーシップなしには、教育目標の達成が難しくなってきたいます。したがって、地域と学校の連携・協働体制の確立がとても重要になってきています。その連携・協働体制の確立には、学校側と地域側双方に窓口となる人が必要です。学校側の窓口は地域連携教員です。そして、地域側の窓口は地域コーディネーターです。本研修は、まさにこれから地域コーディネーターになろうとする方を育てる研修であり、今年度は3回シリーズで実施しました。

第2回の研修では、さくら市立押上小学校区でコーディネーターをされている福田トミ子氏と、塩谷町でコーディネーターをされている鳩田可里氏から、コーディネーターの実際やその御苦労から楽しさまでを語っていただきました。

第3回は、各市町のコーディネーターの活動について活発な情報交換をしました。置かれていた状況は異なっても、学校と地域を結ぶという目的は同じです。そのような「仲間」との話し合いは、予定された時間では足りないほど活発で、笑顔の絶えないものとなりました。

本研修をとおして、コーディネーターとして活躍する方が一人でも多くなればと願っています。



第3回研修でのグループ発表の様子

Column

学校運営協議会

小・中学校の学校経営方針には、必ずと言っていいほど次のキーワードが登場します。

地域とともにある学校づくり

この「地域とともにある学校」への転換を図るには、地域学校協働本部をはじめ地域との連携・協働は必須です。さらに、学校運営協議会を導入し、いわゆるコミュニティ・スクールにしていくことが「地域とともにある学校」への転換に有効だと言われています。

塩谷南那須地区においても、コミュニティ・スクールがスタートしている市町があります。さくら市は、氏家小と熟田小が先行してコミュニティ・スクールをスタートさせました。ほかの学校は2校の実践等を参考に、準備を進めています。

高根沢町は、学校運営協議会を全校に設置し、高根沢版コミュニティ・スクール「みんなの学校」がスタートしました。

これら2市町の取組は、今後コミュニティ・スクールを立ち上げる市町にとって、貴重な先行事例となります。ぜひ、今後の動きに注目していただきたいと思います。

